

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】	b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】
②重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと成績不振者対策の徹底	2 自主的な学習計画の作成と自学自習時間の確保
③現状	1 学期には校内を、2 学期には校内・校外を対象にし、授業公開週間を設置しているが、校務や持ち時間の関係から空き時間を活用して授業見学に行く回数に限られてしまっている。 - 各学年における成績上位層と下位層との学力差が大きくなっており、かつ下位層の人数が増加傾向にある。また学習意欲が高いとはいえない生徒も散見される。	1, 2 学年においては、毎日規則正しく自学自習するという習慣が確立されていない生徒が見受けられる。 - 予習をして授業に臨み、授業後に復習するという学習習慣が十分に確立されていない。 - 受身的な学習態度で、自律的に学習できない生徒が増加傾向にある。
④達成目標 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	教員が高度な知識を身につけ、授業に生かすため教科内及び教科を越えてお互いに授業見学を行う。	自律的な学習を行える生徒を育成する新たな「入り口指導」の実践。
	生徒の学習意欲を高める教材の開発や授業方法について研究し、共有を図る。	1, 2 学年で毎日必ず自学自習する生徒の割合が 90 %以上
	成績不振者に対し、教科と学年との連携を図り早期かつ継続的に指導し、学年末の成績不振者ゼロを目指す。	自学自習時間：平日「学年＋2」時間、休日「学年＋5」時間の達成率 80 %以上
⑤具体的な取り組み	1 学期には校内での、2 学期には保護者や地域に公開しての授業見学・研究会を実施する。 - SSH 事業の一環として、論理的・創造的・独創的思考力の育成を図るための研修を受けたり、授業研究に取り組む。 - 学力差に対応した授業の展開方法や指導法について、学習連絡会等で協議研究を重ね、実践的に取り組む。 - 定期試験後には、成績不振者についての情報を学年と共有して生徒一人一人の状況を把握し、教科担任による面談や個別指導を行うなど早期に対応する。	- 自律的な学習を行える生徒の育成のため、1 年生の「入り口指導」の充実、2・3 年生の学年集会等年度当初に行う「入り口指導」を充実させる。 - 予習－授業－復習－質問の学習サイクルの確立や、毎日の自学自習開始時間とその場所の確定等、学習のしかたを面談等できめ細かく指導する。 - 学習に対する内発的動機付けを高めるため、SSH 事業とも連携し生徒の知的好奇心を刺激する機会を増やす。 - 土曜講習について、学年担任団が教科担任と連携し、各成績層の生徒に対応できる講座を設ける。
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 と思う+2 大体そう思う の割合を表し、 () は 5 わからないの割合を表す ＜ ＞…昨年度データ	- 予定通り授業見学・研究会を実施した。また SSH 事業の一環としての授業研究を予定通り 5 教科で実施し、一部の教科では授業公開週間中に外部へ公開して研究授業を行い多数の来校者に参観していただくことができた。 - 生徒の学習意欲を高める指導法や教材について話し合い、実践できたが、当該学年の担当者内にとどまり、教科全体での共有は不十分であった。 - 成績不振者に対しては各教科で分析を行いその後の指導に活かした。	「自律的な学習」という観点での「入り口指導」の目的は概ね達成された。特に 1 年生の国数英では丁寧な指導が実施でき学習時間の増加に寄与した。上級学年では学力層によりグループを作りお互いに刺激しあって学習する集団を形成できた。 - 自学自習をしていない生徒はほとんどいなくなったが、毎日必ず学習する生徒は 1・2 年生で約 45 %である。 10 月学習実態調査より、目標学習時間達成率は平日 1 年 21 %、2 年 9 %、3 年 32 %。土日 1 年 8 %、2 年 3 %、3 年 16 %。
⑦学校関係者評価	生徒のモチベーションも大切であり、今後いかに学習の方へ向けるかも重要である。	1 年生の入口指導は重点的で評価できる。 - 新しく立派な自習室により、自学自習の向上が期待される。
⑧次年度への課題	生徒の学習意欲を高め、論理的・創造的・独創的思考力育成を図る授業研究をさらに進めていく。	規則的な学習習慣確立のための「入り口指導」プログラムの作成・実践。

①重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現		【進路】【各教科】【各学年】	
②重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承		4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供	
③現状	- 全体計画を進路指導部で作成し、進路講演会や学問探究講義等を実施し、キャリア教育を推進している。卒業生との懇談会も定期的実施し、学習意欲の向上を目指している。 - 時機をとらえた効果的な生徒個人面談を実施するために、三年間を見通した面談の内容について共通理解を図る必要がある。		- 校内模試データによる校内ランクの見直しや、進路指導委員会に向けての検討をさらに充実させる必要がある。また、外部模試のデータ分析については各学年・教科で、組織的かつ計画的に実施されてきてはいるが、必要な対応策を迅速に立案する必要がある。 - 進路学習室や大掲示板の環境整備や、進路委員の活動の充実を図ることで、1，2年生に対する情報提供も充実させる必要がある。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	3年次の適切な進路選択に向けて、蓄積されてきたデータを活用し、1，2年次からの系統的な進路学習を行う。	A	校内模試による校内ランキングの見直し、外部模試の分析、適切な情報提供を通して、進路指導委員会を充実させる。	B
	LHRや総合学習、講演会等の進路関係行事や土曜講座の計画、実践により進路意識の高揚とその維持を図る。	B	1，2年次の進路検討会を実施することで、低学年からの進路情報の提供の充実を図る。	B
	進路指導ノウハウの継承や、生徒個人面談の内容充実を図るために、教職員用の進路シラバスを修正していく。	B	「大学入試改革」に関する正確な情報収集につとめ、全職員で情報を共有する。	B
⑤具体的な取り組み	- 蓄積された電子データ（各学年のLHRの資料や学年独自の進路関係行事の実施記録、及び長期休業前指導などの使用資料）を活用し、三年間を見通したLHR及び進路学習を計画・実践する。 1年次からの進路学習を充実させるため、その出発点として、面談を通して自己理解を深め、「進路講演会」、「学問探究講義」等を通して、学問分野の選択へと繋げていく。 - 生徒の望ましい学習集団形成のために、土曜講座、長期休業中の講習を、実態とニーズに合わせて計画・実施する。 - 各学年毎にその時期の面談の意義や進路指導委員会等の進路行事の目的を明文化することにより職員間の共通理解を図る。		- 校内判定とランキングの見直しを丁寧に行うとともに、大学・入試情報収集を生徒の進路指導に繋げるため検討会を充実させ、生徒の進路希望の実現、教職員の研修に生かしていく。 - 個別大学模試についても学年で分析を行い、その結果をもとに生徒の進路希望実現に向けた指導を行う。 - 進路学習室・大掲示板により、恒常的な情報発信に向けての体制を整える。各クラス進路委員の活動を通して、進路情報の伝達や進路意識の高揚、進路環境の整備を充実させる。 「大学入試改革」に関して、正確な情報収集につとめ、全職員で情報を共有出来るようにする。また、カリキュラム編成に際しても適切に情報提供を行う。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す く >...昨年度データ	- 栃高評価④（3年間を見通した進路指導） 生徒 86%(3)〈83%(5)〉保護者 96%(0)〈85%(2)〉 特に1年生での評価が高かった（生徒 93%）ことから、低学年からの意識付けが浸透しつつあることが窺える。 - 栃高評価②（土曜講習の充実） 生徒 72%(4)〈70%(5)〉保護者 75%(15)〈62%(15)〉 時機を捉えた問題演習の講座や、成績層別の講座の開設などの工夫により生徒の反応は年々良くなってきている。		- 進路指導委員会に向けての事前検討会では、個別大学模試の分析結果もふまへ方向性を確認しながら実施することができた。 - 栃高評価⑥（進路に関する情報の提供） 生徒 85%(3)〈86%(3)〉保護者 93%(1)〈77%(5)〉 3年生向けだけでなく、1・2年生向けの進路情報コーナーを設置し広報も含めて今後さらに充実させていくことができる。 - 校内模試・校内実力や外部模試の分析、1・2年次の進路検討会は時機を捉えて実施することができ、教科ごとの課題や成績層ごとの課題の共有を図ることができた。	
⑦学校関係者評価	- 蓄積されてきたデータを利用した進路指導がなされた。 - 本校の担任による面談は充実している。		生徒は進路指導に関して各方面から有益な情報を得ている。	
⑧次年度への課題	- 土曜講座の計画的な実施による内容のさらなる充実 - 進路シラバスを活用した教職員の共通理解に基づく進路学習		- 各種模試結果の分析に基づいた迅速な対応策の実行 「大学入試改革」に関する正確な情報収集と対応の準備	

①重点目標	d 「読書量の向上」から「読書内容の充実」に向けた環境整備 【図書館】		e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】【生徒指導】	
②重点課題	5 学校図書館の本来の役割を再確認し、生徒の健全な教養を育成する。		6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成	
③現状	・図書委員会ブックトーク、読書会開催、学校祭参加、学校間交流など、図書館活動が活発化し、それが貸し出し数の増加に結びついている。貸し出し数の目標を達成した現在、学校図書館本来のあり方に目を向ける段階になっている。		・健康的な生活習慣に関する様々な情報について、生徒が十分理解して意思決定、行動選択しているとは言えない現状である。 ・安易な遅刻欠席、不登校が見られる。 ・安易な遅刻欠席の防止にむけて、生徒への啓蒙や保護者への呼びかけをしている。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・「文献引用シート」作成の取組の定着及び「小論文模試」への応用	A	・週3日以上運動を実践する生徒 80 %	B
	・図書館購読用新聞、雑誌の構成見直し	A	・保健委員会を活用した「保健だより」の発行と正しい健康情報の発信	B
	・「としょあんない」を利用した、推薦図書の案内と、質の高い読書の啓発	B	・80 %のクラスが出席率 99.5 %になることを目指す。	C
⑤具体的な取り組み	・蔵書の構成を確認・検討し、重点目標に沿ったものとなるようにしていく。 ・高校生の情報源として、適切な新聞を選定する。 ・穏健で、志操堅固な若者を育成するのにふさわしい雑誌を検討し、選定する。 ・図書選定委員会の機能を最大限に活かす。 ・読書会の充実・拡大を図る		・健康的な生活習慣に関する指導を充実させ、教科での授業とともに保健室利用生徒に対して健康に関する意思決定、行動選択の実践を促す。 ・保健委員を活用し保健だよりの内容を充実させるとともに、正しい健康に関する情報発信する。 ・日常的な欠席予防指導、不登校予防指導を強化する。 ・不登校傾向生徒の迅速な把握のため担任、学年、教育相談係の連携を強化する。 ・スクールカウンセラーと連携し、精神的な問題を抱えた生徒やその保護者を支援する。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、 ()は5わからないの割合を表す 〈 〉・・・昨年度データ	・栃高評価⑦ 生徒 45%(6)〈39%(5)〉、保護者 48%(18)〈47%(10)〉 ・栃高評価の結果から読書活動の活発化支援が評価されつつあることが分かるが、依然として不十分だと思われる。 ・「文献引用シート」が夏休みの課題として定着してきた。「小論文模試」との連携も図れ、評価まで適切にできた。 ・雑誌1誌を見直し、新聞2紙を新たに加えて、職員・生徒から評価されている。 ・校外活動では、他校との合同読書会に加え、ビブリオバトル県大会に出場、入賞を果たした。		・栃高評価⑧ 生徒 59%(5)〈57%(4)〉 保護者 83%(7)〈73%(9)〉 ・運動実施状況 週3日以上1年 68%(-4) 2年 65%(-2) 3年 48%(+6) 3年の実施率が改善し、各学年とも全国平均並みとなった。 ・保健だよりを継続的に刊行するとともに、栃高生特有の健康課題についても情報を提供できた。 ・今年度出席率 99.5 %を達成したクラス 38.8 % (49/126) 4～11月 ・昨年度出席率 99.5 %を達成したクラス 39.5 % (64/162)	
⑦学校関係者評価	・「読書内容の質」に視点を向けた新しい試みである。本校生の読書内容に変化の現れることが期待できる。		・カウンセリングの継続的な活用を期待する。 ・計画的な健康指導により耐久レース等が安全に実施できた。	
⑧次年度への課題	・図書館活動全体についての広報推進 ・読書会拡大のための広報のさらなる充実 ・栃木女子校との合同交流会の定着〈ビブリオバトル（書評合戦）実施〉		・運動の習慣化については、耐久レースの指導を通じてより具体的に指導し、健康的な生活習慣について理解させる。 ・「保健だより」の内容を工夫し、より多くの生徒に活用させる。ホームページ等への掲載も継続する。 ・不登校、不登校傾向生徒の指導、援助方法について継続して検討する。 ・安易な欠席予防の更なる啓発を継続する。	

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導			【特活】
②重点課題	7 全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施		8 学校行事、部活動、体験活動に全力的に取り組むための環境整備	
③現状	- 生徒が組織する学校祭実行委員会と各クラスの文化委員が中心になり、全員参加による学校祭を企画している。計画的に準備が進められるようになってはきたが、クラス企画への実行委員会の関わり方が強くなる傾向もある。 - 参加団体の企画の文化性や娯楽的な内容も好評で年々充実している。また、HPを活用し学校祭のピーアールを地域社会に向けて発信してきたことで年々来場者が増加している。		- 部活動加入率も高く、移動教室、外国人との交歓会、ボストン海外研修、県庁堀清掃ボランティア、生徒会リーダー研修会といった多くの行事や体験活動に積極的である。 - 文武両道を掲げ多くの生徒が学校生活を送っているが、進路実現のための学習時間の確保と、部活動や生徒会活動等の様々な活動を両立していく難しさがあるのも現状である。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・入場者目標延べ3,000人(雨天時 2,300人)	A	・年間を通しての部活動加入率 80 %	A
	・クラス企画充実に向けた実行委員会と文化委員の連携	A	・移動教室（スキー・スノーボード）80名、海外研修30名の参加目標人数の達成	B
	・校内公開の完全実施と全員参加	B		
⑤具体的な取り組み	- 生徒実行委員会を定例化し生徒会係職員との連携を強化する。 - クラス企画が準備段階から計画的に取り組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にするとともに、文化委員と担任との関わりを充実させ校内公開、一般公開を成功させる。 - 生徒実行委員会だけでなく、各種専門委員会の生徒会組織全体を機能させ、学校全体を活性化させる。 - 本校HPを活用し、学校祭プログラムを事前告知し、情報発信に努める。 - 学校全体の一体感を育てるために、後夜祭企画は内容をスリム化し、全学年参加型企画を目指す。		- 部活動と学業の両立支援の通知を配布する。 - 年度初めの部活動加入率の調査と、年度末の時点での退部状況の調査を実施する。 - 移動教室やボストン海外研修においては、その魅力を十分に事前告知することにより、目標人数を達成する。 - 体験活動全般において、その意義を各クラスにおいて指導し、事前指導・研修の機会を設け、参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして当日に臨めるようにする。また、福祉委員会に運営の補助ができるよう指導し、福祉委員会の活動の活性化を図る。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1(そう思う)+2(大体そう思う)の割合を表し、 ()は 5(わからない)の割合を表す < >・・・昨年度データ	- 栃高評価⑩ 生徒 92%(2)〈92%(2)〉 保護者 98%(0)〈99%(0)〉 入場者 3,701名（過去最多を更新）昨年度 2,917名 - 昨年を大幅に超える来場者数であり、実行委員と各クラスの文化委員の連携がうまく図られ、例年同様生徒、保護者の満足度も高く充実した学校祭であった。 - ここ数年定着してきた校内公開であったが、一部準備に追われる団体などもあり、校内公開を完全実施するという点では課題も見られた。		- 部活動加入率 4月末 86% 11月末現在 83% 今年度も4月当初から80%を大きく超える加入率であった。4月から比べれば若干減少しているが11月末でも83%を維持、特に1年生84%、3年生85%と高い数字を示している。 - ボストン海外研修参加者 30名で目標人数達成、移動教室スキースノーボード教室参加予定者 61名で例年に比べ2割程度少ない状況である。 - 今年度大雨被害のため、体験活動（県庁堀清掃）は中止となった。	
⑦学校関係者評価	学校祭において事前の広報も十分になされ、予想をはるかに超える入場者数を記録した。		部活動加入率が高いだけでなく、文化部、運動部ともに実績もあげている。	
⑧次年度への課題	食品販売など校内公開のあり方について検討を要する。		2年生の退部者を減少させるような支援体制を整えていく。 - 中止となった行事もあるので、次年度の担当者との引き継ぎを密にする。	

①重点目標	g 規範意識と自主性の向上		【生徒指導】	
②重点課題	9 社会生活における法の遵守とマナーの向上		10 校内生活における規範意識の向上	
③現状	- 各教科やホームルーム、学校行事等において、生徒自身が安全な交通社会の主体となる指導を実践している。 - 学校生活において生徒心得等諸規定を遵守する態度を育成し、そのことが社会のルールを守る態度の育成につながることを理解させ生徒指導を実践している。		- 生徒一人ひとりに存在感や達成感を与えると共に思いやりの心や規範意識を高め豊かな人間性や社会性を育てる指導を実践している。 - 規範意識の向上や生徒心得遵守に関する指導については全職員の共通理解に基づき、その時、その場での指導を実践している。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・交通事故発生ゼロを目指す。	B	・いじめ発生ゼロを目指す。	B
	・登下校時の苦情昨年比50%減を目指す。	A	・携帯電話規程違反生徒昨年比50%減を目指す。	C
⑤具体的な取り組み	- 生徒が校内の集団生活におけるルールの必要性を理解し行動できるよう十分に説明を行い、校内規定違反や小さな問題行動についても教職員が毅然とした粘り強い指導を実践する。 - 交通事故防止については、生徒自身が、被害者にも加害者にもならないことを目指し、保健の授業や交通安全講話、HRでの交通事故事例紹介による注意喚起など年間を通して指導する。		- 生徒同士がお互いの良さを認め好ましい人間関係を築き、いじめが起こりにくい集団づくりの指導をする。 - 気軽に相談、面談できる体制をつくり生徒の悩みに適切に対応し、必要に応じてスクールカウンセラーと連携する。 - 携帯電話使用規程をはじめとする校内規則の遵守については適切な指導を行うと共に内面的な自覚を促し、自主的にマナー向上につとめるよう指導する。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1と思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す < >・・・昨年度データ	- 栃高評価⑫生徒 82 % (2) <75 % (3)> 保護者 87 % (8) <81 % (10)> - 交通事故発生4件。昨年比－3件 発生ゼロは達成できなかったが、半減に近い。交通委員の活動やPTAの積極的な協力が目立った。 - 交通関係苦情、通学マナー苦情4件。昨年比－3件 職員、生徒による定期的な街頭指導を予定通り実施できた。		- 栃高評価⑬生徒 81 % (3) <76 % (4)> 保護者 94 % (3) <81 % (6)> - 栃高評価⑭生徒 80 % (3) <72 % (4)> 保護者 91 % (1) <76 % (4)> - いじめ発生1件 昨年比＋1件 本校のいじめ防止基本方針に基づく行動計画により、いじめの正確な認知と組織的な対応で早期に解決することができた。 - 携帯電話規程違反生徒18名指導。昨年比＋2名 携帯電話等への依存傾向が強い生徒が増えてきた。	
⑦学校関係者評価	交通事故発生も登下校時の苦情もゼロにはなっていないが、昨年度に比べて減少している。		携帯電話（スマートフォン）の指導については、まず1年生入学時に徹底指導することが効果的である。	
⑧次年度への課題	交通ルール遵守、マナー向上を徹底させ事故防止に努める。		いじめ、悩みアンケートの定期的な実施により、いじめやネットトラブルの未然防止、早期指導に努める。	

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み	【保健厚生】	i 広報活動の充実	【渉外】【教務】
②重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善		1 2 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開	
③現状	・教室周辺（特に廊下や階段）の清掃が不十分である。 ・ゴミと資源の分別回収は概ね良好であるが、学校教育活動からの可燃ゴミ量を維持したい。		・「PTAだより」を年2回発行 ・PTA総会、PTA支部会、学年研修会において進路指導・学習指導・生徒指導等の取り組みや現状についての情報の提供 ・PTA評議員会を年4回開催 ・「校報」を年4回発行 ・一日体験学習募集ポスターの送付 ・中学校訪問用持参資料の作成と中学校訪問 ・ホームページの定期的な更新→ 月間アクセス数 約17,000	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・リサイクル活動を促進し、可燃ゴミの量を月間900kg程度を目指す。	B	・情報の共有を深めるための「PTAだより」の内容の充実	B
	・廊下や階段の清掃を徹底して、毎月の環境チェックで指摘ゼロを目指す。	B	・生徒や保護者への説明会開催を目的とした中学校訪問校数 30校	B
			・ホームページの月間アクセス数 18,000 件	A
⑤具体的な取り組み	・環境美化委員会を中心とした資源ごみのリサイクル運動を推進する。 ・環境美化委員が学習環境を整える意識の啓発を促し、月に一度教室や廊下、階段等の環境をチェックする。		・「PTAだより」に会員の声や校内の様子をより多く掲載できるよう検討する。 ・積極的な中学校訪問活動を実践する。 ・中学校訪問の時期・対象・地域・内容の再検討を行う。 ・ホームページ上での一日体験学習への案内と実施内容をさらに充実させる。 ・定期的なホームページ更新講習会を実施する。	
⑥評価	*栃高評価満足度 % は 1(そう思う)+2(大体そう思う) の割合を表し、() は 5(わからない) の割合を表す < > ……昨年度データ ・栃高評価⑮ 生徒 60%(6) <60%(5)> 保護者 52%(31) <54%(17)> ・月例大掃除後の教室環境チェックを実施した。場所によって清掃が十分されていない箇所があった。 ・外来者が来校する際の清掃状況がやや改善し、苦情や指摘されることはなかった。 ・可燃ゴミ合計量 9,052 kg(月平均 905 kg/月・4～1月)であった。合計量が昨年同期比約8%近く減少した。		・「PTAだより」掲載のための写真撮影や選定など内容の充実に努力した。 ・中学校訪問は、昨年度と同様に栃木市・小山市・鹿沼市・壬生町の他に佐野市・下野市・野木町の全ての中学校 64 校に打診し、15 校に訪問することができた。希望期間を地域別にしたり、対象生徒を2学年まで拡大したりした。参加した中学生や保護者からの反応は良好で、訪問した生徒・保護者への十分なPRとなった。 ・ホームページのアクセス数は、4月～11月の平均で37,500件/月。昨年度の17,230件/月から大幅に増加した。また、上半期(～8/31)1,222件/日→下半期(～12/1)1,600件/日で増加傾向にある。地域・保護者への情報発信として質量併せた充実が今後も望まれる。	
⑦学校関係者評価	・ゴミ合計量を減らすことができたのはリサイクル活動等の効果によると思われる。ゴミの分別もできている。		・ホームページへのアクセス数増加はよい傾向である。今後もホームページの充実を期待したい。	
⑧次年度への課題	・環境美化委員によるリサイクル活動を推進し、ゴミの減量を図る。 ・教室や廊下、ロッカー上の整理整頓や清掃については、HR担任や清掃監督者と連携して適切に指導する。		・「PTAだより」の内容について評議員会と綿密な連携を図る。 ・中学校訪問は、訪問する地域や対象学年、形態等の再検討に加えて、希望のない中学校への対応を検討する必要がある。 ・ホームページの活用を全職員が認識し、学校行事や大会等の結果の書き込みの習慣化を図り、さらなる充実に努める。	

